

群馬 教 育	G10 - 01
	平27.257集
	道 徳

# 道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

——心の中の見える化と

自分を見つめる書く活動を通して——

特別研修員 小宮山 貴子

## I 研究テーマ設定の理由

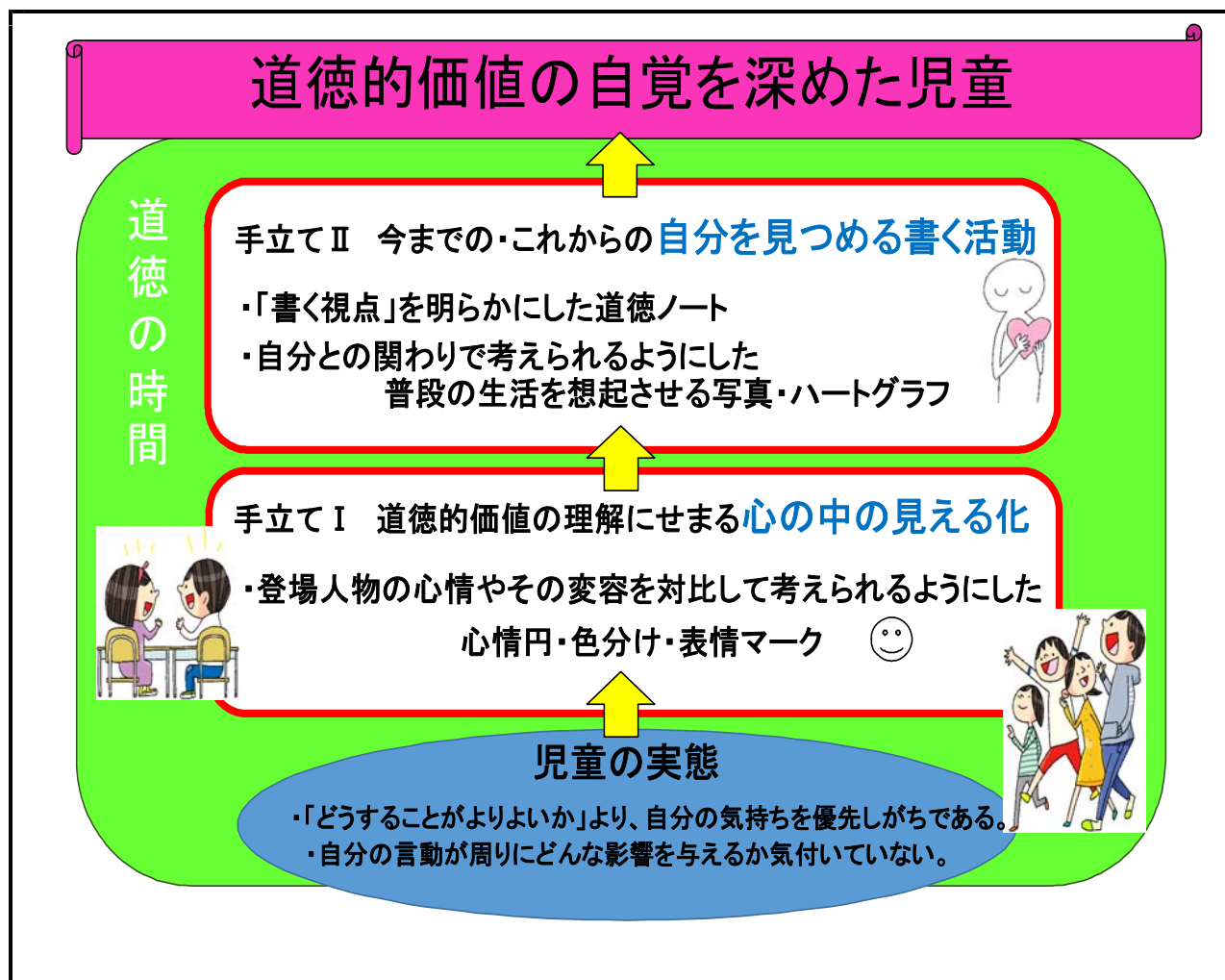
はばたく群馬の指導プランには、「向上する心」「やりぬく心」「大切に作る心」の三つの心を道徳の時間を中心として育成することが示されている。

実際に児童は「今までよりもよくなりたい」という気持ちを強く持っている。しかし、「今どうすべきか」「どうすることがよりよいか」や、「周りにどんな影響を与えるか」を深く考えずに、自分の気持ちを優先して行動する様子が見られる。

そこで、まず登場人物の持つ二つの心を対比して考えられるような発問をし、登場人物の心情やその変容を心情円や表情マークなどで見える化する。それにより、道徳的価値の理解を深めさせる。そして、毎時間道徳ノートに「今までの自分・これからの自分」について書かせていくことで、自分を見つめ、振り返りをさせていく。これらの活動を通して、道徳的価値の自覚を深めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

実践1の資料は、「雨のバス停留所で」内容項目4-(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ」である。

実践1における研究上の手立て
(1) 心の中の見える化 「自分のことばかり考えている心」と「周りの人のことを考える心」の対比 ↓ 心情円(よし子の心の中の見える化)・・・「自分のことばかり考えている心」は水色、「周りの人のことを考える心」はピンクにし、円の割合で示す。
(2) 自分を見つめる書く活動 ① 写真の提示・・・学校生活で児童がきまりやマナーを守っている様子を提示して日常生活を想起させ、自分との関わりで考えられるようにする。 ↓ ② 道徳ノートの記入・・・「今までの自分・これからの自分」について自己の振り返りを書く。

実践2の資料は、「六セント半のおつり」内容項目A-(2)「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」である。

実践2における研究上の手立て
(1) 心の中の見える化 「自分の失敗から目を背けようとする心」と「自分の失敗を認めて前向きに考える心」の対比 ↓ 二つの心の色分け(エイブの心の中の見える化)・・・どちらの心を使って行動したか分かりやすくする。 ↓ 表情マーク(登場人物の心の中の見える化)・・・正しい行動をした場合としなかった場合に引き起こされる結果の違い(気持ちのよさや周囲が見る目)を顔の表情で表す。
(2) 自分を見つめる書く活動 ① ハートグラフ(自分の心の中の振り返り)・・・「自分の失敗を認めて前向きに考える心」が、今までどれぐらいあったと思うかハートに色を塗る。 ↓ ② 道徳ノートの記入・・・「分かったことや考えたこと」「今までの自分・これからの自分」について自己の振り返りを書く。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 登場人物の二つの心を考えさせる発問をし、見えない心の中を心情図や表情マークなどを使って「心の中の見える化」をしたことで、道徳的価値の理解に迫る話合いができた。
- 資料で道徳的価値について話し合った後、かかと揃えをしてある下駄箱や、整理整頓してある机と椅子の写真を見せて、児童の普段の様子を想起させたり、今までの自分の心の中を振り返ってハートグラフで表したりしたことは、道徳的価値を自分との関わりで考えさせる上で効果的だった。
- 「分かったことや考えたこと」「今までの自分・これからの自分」という視点を与えて道徳ノートに毎回振り返りを書かせたところ、自分の言葉で道徳的価値をまとめたり、「今までの自分は、～の時、～だった。これからは、～したい」と具体的な場面で振り返りをしたりする児童が増えた。このことから、道徳的価値の自覚が深まったと考える。

### 2 課題

- 児童の考えを更に深めさせるためには、出された意見を教師がただ受け止めるだけでなく、また児童に返すような問いかけやゆさぶりの発問を工夫していく必要がある。
- 自己の振り返りを互いに伝え合う時間をとると、更に道徳的価値の自覚が深められたと考える。

## <授業実践>

### 実践 1

- 1 主題名 社会のきまりを守って 内容項目 4-(1)(第4学年・1学期)  
資料名 「雨のバス停留所で」 文部科学省 わたしたちの道徳

### 2 本主題及び本時について

本主題は、要領内容項目 4-(1)「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ」をねらいとしている。資料は、よし子がバスを待つ人たちを無視して一番にバスに乗り込もうとし、母親に無言で止められて反省し始めるという内容である。よし子の思いを中心に考えていくなかで、約束やきまりの必要性や重要性を認識し、周囲の人々への配慮や思いやりをもって集団や社会のことを考え、約束や社会のきまりを守ろうとする態度を育てていきたいと考えた。そのために、次のように手立てを具体化した。

- 「バスを待っている間のよし子の気持ち」と「お母さんの横顔を見ながら自分のしたことを考え始めたよし子の気持ち」を問うことで、「自分のことばかり考えているよし子の心」と「周りの人のことを考えているよし子の心」を出させ、心情円で対比できるようにした。そして、「約束やきまりを守るとはどういうことか」について考えを出し合うことで、道徳的価値の理解が深まるようにした。
- 展開後段での話し合いをもとに、自己の振り返りや分かったことなどを道徳ノートに書かせ、自分の言葉でまとめさせることで、道徳的価値の自覚を深められるようにした。

### 3 授業の実際

アンケート結果によると、約束やきまりが守れない理由は「急いでいた」「面倒くさくなったり、機嫌が悪かった」「嫌なことをされて自分も嫌なことをしてしまった」など、自分本位になった時に守れないということが分かった。この実態から、「表れてほしい児童の反応」を以下のように設定した。

#### <表れてほしい児童の反応>

約束やきまりを守るということは、自分の気持ちばかり考えて行動するのではなく、周りの人のことも考えて行動することが大事だと思った。これからは、みんなが気持ちよく過ごせるように進んできまりを守っていききたい。

このような児童の反応が引き出せるように、次のように発問した。

○補助発問 T：バスを待っている間、よし子は誰のことばかり考えていますか。

S：よし子は自分のことばかり考えています。

↓ 心情円で示させる

児童は、自分本位な気持ち(水色)が心の中の大半を占めていることに気付くことができた。

◎中心発問 T：知らぬふりをしているお母さんの横顔を見ながら、よし子はどんなことを考え始めたでしょうか。

S1：どうして抜かしてしまったのだろう。

S2：他の人に迷惑をかけたしまった。

S3：人のことを考えていなかった。

「なぜお母さんは怒っているのだろう」という考えしか書けない児童もいたが、話し合いを通して、ワークシートに反省する気持ちを付け足す様子が見られた。最終的に全体の90%の児童が周りのことを気にかけるよし子の考えをワークシートに書くことができた(図1)。

児童は、自分本位な気持ち(水色)が心の中で少なくなったことに気づき、代わりに大半を占めている気持ち(ピンク)は、「思いやり」「人のことを考える気持ち」と捉えることができた(次頁図2)。

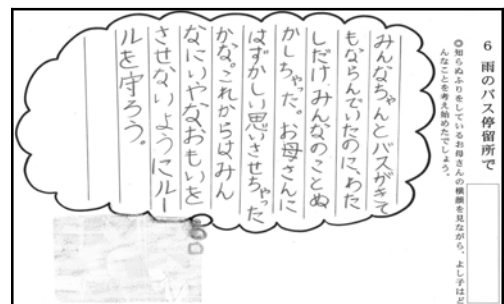


図1 よし子の考えを書いたワークシート

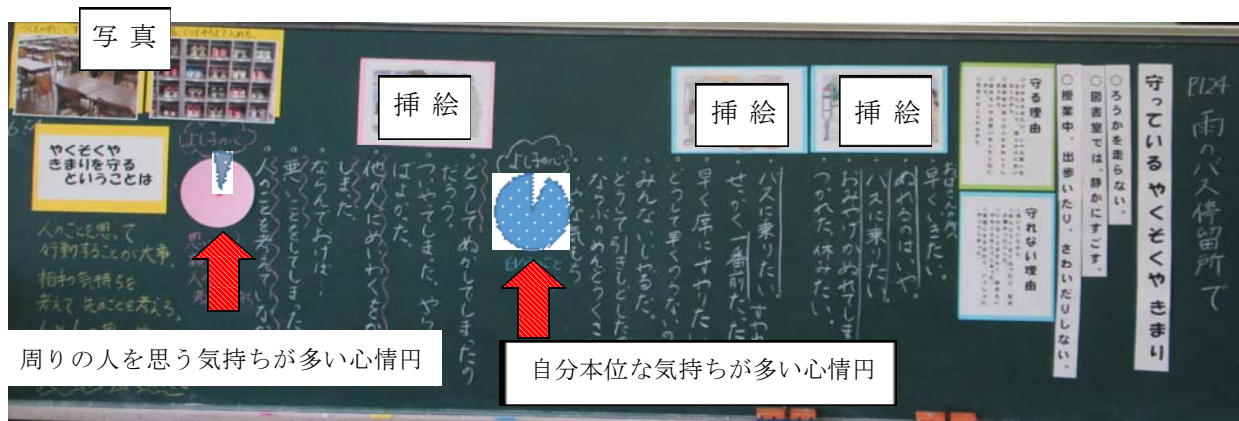


図2 心情円を示した板書

展開後段では、資料をもとに児童が自分の身の回りのことにつなげて考えられるように、「下駄箱に靴のかかとを揃えて入れてある様子」と「机と椅子を整理整頓してある様子」の写真(図2)を見せた。普段自分たちがきまりを守っている様子を改めて確認し、「きれい」「気持ちがいい」「安全」という言葉が聞かれた。その後、道徳的価値を自分なりの言葉でまとめさせるため次のように発問した。

○補助発問 T : 約束やきまりを守るといことはどういうことでしょうか。  
 S1 : 人のことを思って行動することが大事。  
 S2 : 人と人との思いやり。  
 S3 : 自分のことばかり考えないで、人の気持ちも考えること。

考えを発表させて共有化することで理解が深まり、図3に示した児童の道徳ノートのように、道徳的価値に迫る考えを書くことができた児童は全体の71%だった。中には、「自分のことより相手を大切にする」と書いた児童も見受けられた。それは、「みんなが気持ちよく過ごせるように」という点を押さえるのが弱かったためと考える。自己の振り返りでは、自分の経験と照らし合わせて書けた児童は全体の42%だった。「約束やきまりを守るといことは」と、自己の振り返りを一度に書かせてしまったため、振り返りにまで至らなかったと考える。

6/9 やくどくやきまりまもるといことは  
 大事なことは、あいての気持ちを考えて  
 さきのことを考えることが大事。みんな  
 ながいかな気持ちにならないように  
 わたしは図書委員会でおくれそう  
 なときにろうかきはしてしまいま  
 す。でもこれからはろうかきは、は  
 しろないで、いそいでい  
 ります。やくどくまもりた  
 いです。

図3 道徳的価値に迫る考えを

書いた道徳ノート

#### 4 考察

- 導入で、事前にとったアンケート結果を示したことにより、ねらいとする価値への方向付けがスムーズにできたとともに、児童自身も「自分の都合や気持ちを優先すると、きまりを守ることができない」ということに目を向けさせることができた。
- 人間の弱さと道徳的価値のよさを導き出すような発問をしたことで、児童はそれぞれの場合の主人公に共感し、その心の変化を理解することができた。
- 心情円で心の中を見える化し、「どんな気持ちが大半を占めているか」を考えさせることで、「自分のことばかり」「相手のことを考える」という道徳的価値の理解に重要なキーワードが出された。また、「約束やきまりを守るといことは」を自分の言葉でまとめる際に、心情円を参考にして考える様子が見られた。
- 展開後段で、学校生活で児童がきまりやマナーを守っている写真を提示したことは、自分との関わりで「約束やきまりを守るといこと」について考えたり、経験を想起させたりすることにおいて効果的だった。
- 道徳ノートに自分の考えや振り返りをたくさん書ける児童が増えたが、全員が経験に照らし合わせて振り返れるように、普段の生活を想起させる手立てと十分な時間の確保が必要である。

## 実践2

- 1 主題名 正直に明るい心で 内容項目A-(2)(第4学年・2学期)  
資料名 「六セント半のおつり」文部科学省 わたしたちの道徳

### 2 本主題及び本時について

本主題は、一部改正学習指導要領（平27年度）の内容項目A-(2)「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」をねらいとしている。アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンの人柄を題材にした資料で、店で働く若いエイブは、昼間の女性客に渡すべき釣り銭が少なかったことに夜になって気付く。わずか六円ほどのお金を、エイブは二時間かけて届けに行ったという内容である。自分の失敗を素直に認め、「正しいことをしたい」という心を強くもったエイブに共感させることで、正直で誠実な行動は自分も周りもすがすがしく明るい気持ちになることに気付かせたいと考えた。そのために、次のように手立てを具体化した。

- 失敗に気付いたときのエイブの気持ちを考えさせることで、「正しいことをしたい」という気持ちと「ごまかしてしまおうか」という気持ちの両方を出させて、人間理解を深められるようにした。また、二つの気持ちを板書で色分けし、「正しいことをしたい」という心を強くもって行動すると、本人だけでなく周りもすがすがしく明るい気持ちになることに気付かせるようにした。
- 今までの自分は「正しいことをしたい」という心がどれくらいあったと思うかハートに色を塗らせて（ハートグラフ）自分との関わりで考えさせてから、振り返りや今後の生活に生かしていきたいことを言葉でノートに書かせ、道徳的価値の自覚に結び付くようにした。

### 3 授業の実際

児童の実態として、教師から注意されたことは素直に認めて行動を改めようと努力できるが、友達から注意されたことには正直に謝ったり行動を改めたりすることがなかなかできない面がある。また、「忘れ物をしてしまった」「物を壊してしまった」などの自分の失敗やいたづらを黙っていたり、「自分一人だけではない」と責任を回避したりする様子も見られる。これにより、「表れてほしい児童の反応」を以下のように設定した。

#### 〈表れてほしい児童の反応〉

正直に行動すると、気持ちがいいし、周りの人の信頼を得ることもつながるのだと思う。  
これからは、失敗しても隠したり、ごまかしたりしないで、素直に明るく生活していきたい。

導入では、「正直な人とはどんな人？」というアンケート結果を提示した。「本当のことを言う人」「優しい人」「嘘をつかない人」などのように答えた児童が多い中で、「自分が言われて嫌なことを言ったり、友達の秘密を他の人に話したりしてしまう人」と答えた児童がいたことを話し、「正直とはどういうことか考えていこう」と本時のテーマを投げかけた。

- 補助発問 T：夜遅くになっておつりの間違いに気付いたエイブは、どんなことを考えたでしょう。
- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| S1：どうしよう。怒られる。 | S4：返した方がいい。     |
| S2：今度来たときに返そう。 | S5：届けに行こう。      |
| S3：面倒だから後で返そう。 | S6：待っているかもしれない。 |
|                | S7：困っているかも。     |

自分の失敗を認めて前向きに考える気持ちと、失敗から目を背けようとする気持ちを分けて板書し、「正しいことをしたい」という心をピンクで囲み、「後でいいか」という心を水色で囲んで二つの心を理解しやすいようにした(図4)。「少しのお金だから返さなくてもいい」という考えは出なかった。

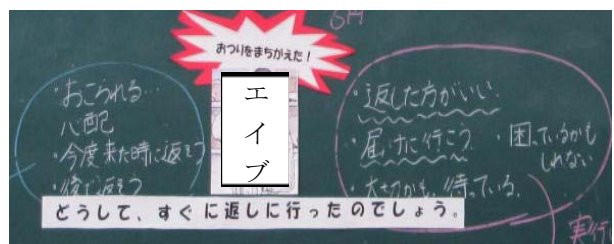


図4 二つの心を分けて書いた板書

- ◎中心発問 T : どうして、エイブはおつりをすぐに返しに行ったのでしょうか。
- S1 : 怒られる前に届けようと思ったから。
- T : 怒られないようにするために、すぐに返しに行ったということ？
- S2 : 違います。
- S3 : 女の人のことを考えて、すぐに返しに行った。
- S4 : エイブがした失敗だから、「悪かった」という気持ちで行った。
- S5 : 女の人の大事なお金だし。
- S6 : すぐに行かないと、女の人のお店への信頼がなくなって来なくなってしまうから。
- S7 : 大切なお客様だから。

他に「許してくれないかもしれないから、すぐに返しに行った」という考えも出されたが、「エイブは許して欲しくて、自分のために返しに行ったのですね？」とゆさぶりをかけたところ、他の児童が「自分のために行ったわけではない」「相手のことを考えて行動した」と発言した。話を進める中で、友達の考えを付け足すなどして、図5に示した児童のワークシートのように、エイブの行動の理由を捉えることができた児童は、最終的に全体の81%だった。

- 補助発問 T : おつりをすぐに返しに行ったエイブは、どちらの心を使ったのでしょうか。

全員が、「正しいことをしたい」という心であると挙手で答え、本当の正直とは「正しいことをしたい」という心からくるものであることを確認した。正直な行いをして笑顔で帰って行くエイブ、お金を受け取った女の人、それを知った店の主人、それぞれの気持ちを全員で確認しながら、表情マークで表した。「後でいいか」という心を使った場合は、どんな表情マークになるかも考え、その違いが明らかになるようにした。道徳ノートを見ると、「返してスッキリ」「なんていい人だろう」「いい人を雇った」というような気持ちを表す言葉を表情マークに添えた児童もあり、表情マークを描かせたことで、「正直な行いは周りの人から信頼される」ことに気付かせることができた。

道徳的価値を自分との関わりで考えられるように、今まで自分は「正しいことをしたい」という心がどれぐらいあったと思うかハートに色を塗らせたところ(ハートグラフ)全員が取り組めた。それを手掛かりにして図6に示したような自己の振り返りができた児童は全体の65%だった。



図5 エイブの行動の理由を捉えたワークシート

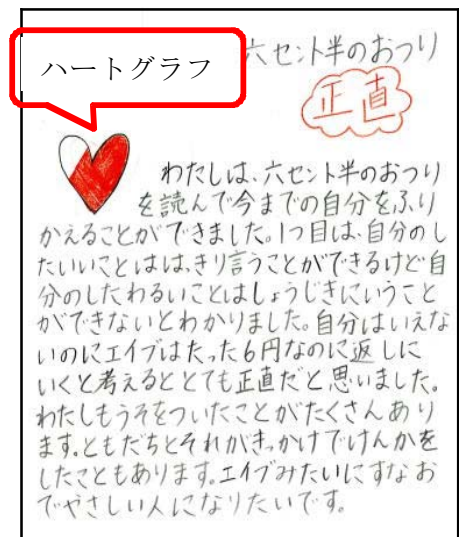


図6 振り返りを書いた道徳ノート

#### 4 考察

- 二つの心を考えさせる発問をし、板書で色分けしたことで、「正しいことをしたい」という心からくる行動が正直である、という道徳的価値の理解を深めることができた。
- 導入で使ったアンケート結果である「自分が言われて嫌なことを言ったり、友達の秘密を他の人に話したりしてしまう人」は正直であるかどうか展開後段で再度聞いたところ、「嘘はついていないけど、相手が嫌な気持ちになるから違う」という考えが出され、価値理解の確認をする上で有効だった。
- 自己の振り返りで、全体の35%の児童が自分の経験と照らし合わせたり、これからの自分について考えたりするまでには至らず、課題が残った。